240 3-0-5-09:12
顔面神経麻痺後遺症患者の鍼治療効果について（第2報）

1)埼玉医科大学　東洋医学科
2)埼玉医科大学　健康管理センター
新井　千枝子[1)]、山口　智[1)]、小俣　浩[1)]、
阿部　洋二郎[1)]、浅香　隆[1)]、菊池　友和[1)]、
磯部　秀之[1)]、大野　修嗣[1)]、三村　俊英[1)]、
土肥　豊[2)]

【目的】顔面神経麻痺の後遺症は、高度神経変性例に出現する不快で難治な症状である。現在、こうした後遺症状に対し表情筋のBiofeedback療法の有効性が高いとされるが、近年、高頻度刺激による非同期鍼通電療法（以下非同期AET）の有効性に関する報告も散見され、我々も50Hzによる非同期AETが後遺症状の中でも、最も苦痛とされる病的共同運動、特に口笛動作時の眼裂幅の改善が得られたことを報告した。そこで今回は、症例を追加し、顔面神経麻痺後遺症に対する鍼治療の有効性について詳細に検討したので報告する。

【方法】対象は、後遺症を有する顔面神経麻痺患者8例、男性2例、女性6例、平均年齢52.5±3.7歳（mean±SE）、Bell麻痺4例、Ramsay Hunt症候群3例、両側交代性1例についてである。方法は、患者群の後遺症の出現時期、後遺症スコアと口笛動作時の健側と患側の眼裂幅を比較した。なお、鍼治療の方法は、表情筋に非同期AETを15分間施行した。

【結果】患者群の後遺症は174.0±8.5日目に出現し、後遺症スコアは5.6±1.3点から、8.0±1.4点へと変化したが、有意差はなかった。さらに、口笛動作による患側の眼裂幅は、健側に比べ狭小していたが（健側6.94±0.64,患側4.38±0.69：$p<0.01$）、非同期AETの継続により改善した（6.31±0.81：$p<0.01$）。

【考察と結語】顔面神経麻痺後遺症に対する保存療法としては、栢森らの提唱する中枢（大脳運動皮質）での表情筋神経支配の再構築を目的としたBiofeedback療法の有効性の高いことが報告されている。今回我々も表情筋群への非同期AET を行った結果、最も苦痛とされる眼裂幅狭小の改善が示されたことから、非同期AETは表情筋への刺激のみならず、Biofeedback療法と類似したメカニズムにより、後遺症状を抑制している可能性も考えられた。以上より、鍼治療は現代医療で難治とされている顔面神経麻痺後遺症に対し、有用な治療法の一つであることが示唆された。

キーワード：顔面神経麻痺、後遺症、非同期鍼通電療法

241 3-0-5-09:24
蘇生後低酸素脳症による意識障害に鍼治療を試みた3症例

岐阜大学 大学院医学系研究科 循環/病態学・第2内科
松本　淳、村田　一知朗、鎌田　剛、川久保　勲、
湊口　信也

【緒言】心停止蘇生後低酸素脳症の3例に意識障害の改善目的にて鍼治療を試みた。

【症例】［症例1］76歳男性。2005年に急性心筋梗塞（AMI）により心肺停止（CPA）となり蘇生処置の後、当院救急部に搬送され、経皮的冠動脈形成術（PCI）施行された。［症例2］87歳男性。2007年、AMIにてPCI施行中に心室細動、心停止となり蘇生された。［症例3］57歳男性。2007年、AMIにて当院搬送中のCPAとなり、当院到着後蘇生され、PCI施行された。3例とも内科的治療により全身状態が改善傾向となった後も意識障害が持続したため鍼治療を開始した。

【鍼治療】症例1は入院28日目、症例2は同50日、症例3は同17日目より開始した。治療は、人中、百会、合谷、内関、豊隆、足三里、太谿等への鍼治療を週4回の頻度で行った。症例3は、ヒルトニン療法も開始し、その後に抗痙攣薬が増量された。

【経過】［症例1］鍼初診時GCS:E4VtM4、追視（-）。5診目頃には、頷きなどの応答動作が鍼刺激中のみ認められ、鍼10日目頃からは鍼治療時以外にも時折認められるようになった。9週後の退院時にはGCS：E4VtM5～6であり、稀に一言程度の発語動作を認めた。［症例2］鍼初診時GCS：E2（～稀に3）VtM4、追視（-）。鍼治療開始直後から追視の明瞭化等がみられ、鍼開始後3週頃にはGCS：E4VtM6となり、7週頃には筆談等によるごく簡単な意思疎通が可能となった。［症例3］鍼初診時GCS：E2～4VtM4（～ごく稀に6）で不安定であったが、鍼7日目頃からは頷きや離握手等による意思疎通が明瞭となった。51日目の退院時は年齢の誤答などはあるものの意思疎通良好で、HDS-R：21点であった。

【まとめ】3例とも鍼治療開始後に意識状態の改善傾向が得られたが、症例3は他の薬剤との同時期の併用であり、他の2例に比べ鍼治療単独の効果は不明瞭であった。しかし、3例とも置鍼中や鍼治療直後に開眼や追視、応答動作等が明瞭となることが多く、鍼治療が有用であったと考えられた。

キーワード：蘇生後脳症、低酸素脳症、意識障害、鍼治療、心肺蘇生後